

ソフトテニスハンドブックの改訂についての要点

- (1) 名称を「ソフトテニスルールブック」とする。
 - ・競技規則、審判規則、大会運営規則以外はホームページへの掲載とする。
- (2) 「アンパイヤー」の表記を「アンパイア」とする。
- (3) 「レフェリー長」を「チーフレフェリー」とする。
- (4) 「採点票」を「スコアシート」と名称を変更する。
 - ・国際化を考慮した。
- (5) 競技規則

① P29 第 32 条 (3)

(3) 有効にサービスされたボールが、ワンバウンド後ツーバウンドする前に、レシーブするプレーヤーのパートナーのラケット、身体又は着衣に触れた場合(インターフェア)。サービスボールが直接レシーブするパートナーのラケット、身体又は着衣に触れた場合、「ダイレクト」となる。正しくサービスコートにバウンドをした後に触れた場合と明確に分けるため「ワンバウンド後」を入れた。もちろん正しいサービスコートに入らなかった場合はその時点で「フォールト」となる。

② P32 (インプレーにおける失ポイント) 第 37 条

(5) ラケット、身体又は着衣が、次のいずれかに該当した場合、ラケットがプレーヤーから離れて直接又は一旦コート若しくはアウトコートに落ちてから該当した場合、着衣がプレーヤーから離れて直接該当した場合、及びコート又はアウトコートに落ちていた帽子、タオル等(ボールは含まない)を、手、足又はラケットで押しやったものが直接該当した場合も含む。ただし、打球の惰性でラケット、身体又は着衣がネットを越えた場合、及び相手方アウトコートに触れても明らかな打球妨害(インターフェア)にならない場合を除く。

従来「ネットタッチ」が状況によって別の条文に分けられていたものを一か所にまとめた。

③ P33 (インプレーにおける失ポイント) 第 37 条

- (6) 打球の際、そのボールがラケットに 2 度以上当たった場合(ドリブル)。
- (7) 打球の際、そのボールがラケット上で静止した場合(キャリア)。

同じ条文の中に 2 つのコールが入っていたものを 1 つずつに分けた。

④ P34 解説 13

3. 空振りしてラケットがネットを越えた場合は第 5 号アに該当する。
4. 第 5 号イには、相手の打球がネットに当たり、そのボールがネットを押し、又は風のためにネットがふくらみプレーヤーに触れた場合も含む。

条文の中あった具体的な事例を解説に移動した。

⑤ P35 (タイム) 第 39 条

(1) …プレーの継続ができなくなり (マッチ開始前の練習中を含む)、…。

マッチ開始前の練習中における身体上の故障について「タイム」が取れるようにした。

⑥ P36 (棄権) 第 41 条

(1) 参加申込を行った大会に、参加しなかった場合(リタイアメント)。

(2) プレーヤー又はベアからの特別の理由による申し出に対して、レフェリー又は競技責任者が認めた場合(リタイアメント)。

(3) …許容時間内に回復ができなかった場合(タイムズアップゲームセットリタイアメント)。

(4) …ただし、正審が認めた場合に限る(タイムズアップゲームセットリタイアメント)。

(5) 大会運営規則第 11 条により競技ができなくなった場合(リタイアメント)。

「棄権」の場合のコールを明確にした。審判規則第 18 条も同様である。

⑦ P37 解説 16

5. ポイントの判定に関する質問は次のポイントに入った場合、行うことができない。ただし、ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム中、ゲームカウントの誤りについては、そのマッチ中に限り質問することができる。次のポイントの始まりとは、サービスをするプレーヤーがサービスをしようとして手からボールを放した瞬間をいう。なお、質問に対しては、アンパイアは審判規則第 14 条により判定する。

質問の期限について明確にした。

⑧ P38 (失格) 第 44 条

1. …失格を宣告する(レフェリーストップゲームセットディスクオリフィケーション)。この場合は大会の最初にさかのぼって失格とし、順位は空位とする。

2. …失格とし相手方の勝ちを宣告する(レフェリーストップゲームセットディスクオリフィケーション)。

失格のコールの修正を行った。審判規則第 21 条も同様である。

⑨P39 解説 17

1. マッチへの出場の通告を受けたプレーヤーがコートに出場しない場合、アンパイアがコートに到着後、5分経過で警告1回とし、3回をもって失格とする。(15分経過で失格)。なお、警告を受けたプレーヤーが失格する前(警告2回まで)に出場した場合は、それまでに与えられた警告はそのマッチ中(団体戦においては第1対戦のみ)有効となる。…

団体戦の遅刻による警告は第1対戦のみに与えられることを明確にした。

⑩ P40 (ヒートルール) 第 46 条

大会会場の暑さ指数 (WBGT) が原則 31 以上となり、ファイナルゲームとなった場合、ファイナルゲームに入る前に 3 分間のテニスコート内 (アンパイアの目の届く範囲) での休憩を許可する。

WBGT 計の普及に伴い、環境省の「熱中症予防サイト」の基準に合わせた。

⑪ P41 (規則上の疑義) 第 48 条

マッチにおいてこの規則、審判規則及び大会運営規則に定めのない事項が発生又は発生が予測される場合、アンパイアはレフェリーと協議して決めるものとする。なお、事前に発生が予測される場合は競技委員長及びレフェリーが決定するものとする。

事前に発生が予測される場合、まだアンパイアはいないので競技委員長及びレフェリーで決定することとした。

(6) 審判規則

① P50 (アンパイアの判定区分) 第 8 条

(1) 区画線による判定区分 (付図参照)

ア 正審 AB, CD, AC, EG, MN, XY, S, R (線審を置いた場合 AB, CD は線審の判定区分とする)

イ 副審 BD, FH, EF, GH, XY

ウ 線審 AB, CD

第 5 条にあるようにアンパイアは正審 1 人、副審 1 人が原則であるため、ベースラインを正審の判定区分とした。

② P54 (サイン) 第 11 条

ウ その他の判定区分 (レット、ノーカウントを除く) は、付図 (オ) のとおり、片手で該当することを行ったプレーヤーを示して、該当するコールをする。

人に指を指すのはいかがなものかという意見を考慮し、従来、プレーヤーを「指して」とあったものを「示して」とし、併せて付図オも修正した。

③ P55 (再判定) 第 14 条

1. アンパイアはマッチ中に判定等に…、内容を確認の上、両者を審判台のところに呼び、再度判定の結果を正審から通告する。

質問に対しアンパイアが頷く程度は再判定とはみなさず「両者」を「審判台」のところに呼んで通告することとした。

(7) 大会運営規則

① P96 (組み合わせ) 第 14 条

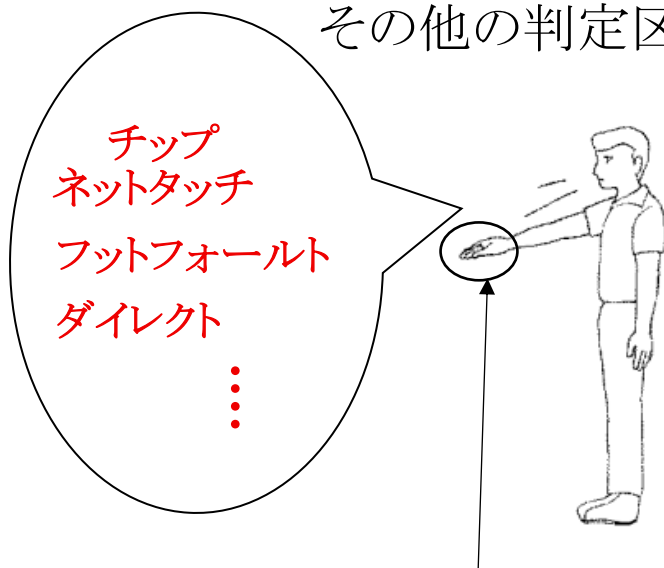
ウ リーグ戦の場合の試合順序

○6の場合 1-5・2-6・3-4・1-2・4-5・3-6・2-5・1-3・
4-6
2-3・5-6・1-4・3-5・2-4・1-6

最上位者の「1」が下位から順に当たることとした。また、上位者が不利になる状況をなくした。

(8) 審判のサイン

その他の判定区分



従来の判定では、ミスをしたプレイヤーを指さし、コールをしていましたが、新しいルールブックでは、ミスをしたサイドのプレイヤー側の手の平を上に向け、コールとサインを行なう様に変更されています。